

がん研ボランティア 活動報告書 (2016)



がん研有明病院
CANCER INSTITUTE HOSPITAL

平成 28 年度 ボランティア活動 年間のご報告

いつも、がん研有明病院のボランティア活動にお力添えをいただき、誠にありがとうございます。
2011年から発行しております、こちらの『ボランティア活動報告書』も、今回6号目となりました。
2015年に活動開始10周年を迎えたがん研のボランティア活動は、2016年、次の10年へ向けての新たな一歩を踏み出す年となりました。

大きな変化としては、ボランティア活動の窓口となっておりますボランティア支援室が、6月1日付で経営本部医事部より、病院本部へと組織変更がありました。以前は看護師や医療ソーシャルワーカーが在籍する医療支援センター（現：緩和ケアセンター医療連携部）の所属となっておりますが、組織改編により一旦は経営本部へ移り、今回再び元の病院本部へと戻って参りました。ボランティア活動は、日頃から看護師やコ・メディカルスタッフと共に患者さんやご家族へのサポートをする機会が多いため、病院本部に戻ったことによって他部署との連携も取りやすく、より良いボランティア活動を展開できるようになりました。

また、5年間にわたってボランティア支援室の室長を務めた経営本部の榎山副本部長が、がん研究会の常務理事に就任されることとなり、呼吸器センター長で呼吸器外科部長の奥村先生が室長に就任したこともこれまでにない変化でした。外科部長の先生自らが室長としてボランティア活動に関わるようになったことにより、医師や看護師などの医療スタッフが、今まで以上にボランティア活動を身近に感じ、今後の協力体制も深まっていくのではないかと期待しています。

奥村先生は、就任時に「入院患者さんは時に季節の移り変わりや色々な季節のイベントから気持ちが離れてしまいがちです。普段のお気持ちで治療が受けられるように季節にそったイベントを行うことは大切です。ボランティアの活動も増えていきますが、少しでも患者さんに喜んでいただき、がん研有明病院での治療が、『この病院で治療を受けて良かった！』とっていただけますように、そして、医師は検査・診療に責任をもって、看護師は心のケアも含めて全人的な看護をさせていただくことは当然のことですが、日々の診療で緊張している気持ちの中に少しは、ホッ！とした気持ちを持っていただけるようにと願って、今後もボランティアの活動を行って参ります。」と院内誌に寄稿しています。

ボランティア活動を通じて、患者さんやご家族だけではなく、医療スタッフやボランティアの皆さんにも心豊かになっていただけるように、ボランティア支援室から様々な働きかけをしていきたいと思えます。多くの皆さまの共感を得られますように、引き続き、ご理解とご協力を宜しくお願いいたします。

2017年6月
がん研有明病院 ボランティア支援室
柴田かおり

がん研有明病院

ボランティアの目指すもの



- ・ 入院、通院されている患者さんが院内で快適に過ごすことができるように支援します
- ・ 患者さんが安心して治療できる環境づくりの担い手となります
- ・ 患者さん、ご家族と病院や社会との間をつなぐ架け橋となります
- ・ 入院生活に季節の風をもたらします
- ・ 院内のサービスの向上と充実につながるよう陰ながらサポートします

がん研有明病院ボランティア支援室

がん研有明病院 ボランティアシンボルマーク



カニのハサミがボランティア(Volunteer)のVマークを象り、
2つのカニのハサミは手と手を取り合い助け合いを
イメージしたシンボルマーク

1. コンサート活動のご報告

病院主催行事として行うコンサートの活動では、タイプの異なる3つのコンサートを開催しています。患者さんやご家族に院内にいながら生の演奏を聴いていただき、治療中でも楽しい時間をお過ごしいただけるようにと、演奏はプロとして活躍されているアーティストの方、またはプロ活動に準ずる活動をされている方をお願いして、謝礼や交通費もない全くのボランティアでご協力いただいております。

コンサートにご出演いただく方には、がん専門病院での演奏であることをご理解いただいた上で、ご自身の演奏技術を披露したり、PR 活動に重点を置くことのないよう、十分に配慮をしていただき、がん治療に向き合う患者さんと一緒に闘っているご家族に少しでもお元気になっていただけるような心温まる曲を選んでいただいております。

こここのところ、コンサート活動に対して好意的なご意見だけでなく、選曲やピアノなどの楽器、歌声の音量や歌詞の内容等、様々なご意見も寄せられています。演奏内容や使用楽器も同じようなジャンルにならないような演奏スケジュールを組むことも心かげ、ご出演いただく演奏者のご意向も伺いながら、どのような演奏が患者さんやご家族に楽しんでいただけるかを検討し、病院職員と一緒にボランティアわかばのメンバーにコンサートのサポートをしていただきながら開催する手作りのコンサートです。

ホスピタルコンサート、BGM タイム、ミニコンサート、それぞれ違った雰囲気ですが、毎回素敵な演奏で院内の雰囲気が明るなものとなっています。聞き馴染みのある曲やお好きな歌があると口ずさむ方や、車椅子に乗りながらも足でリズムで取られる方、手拍子をしてくださる方もいらっしゃいます。演奏者の方によっては『患者さんやご家族と一緒に歌いましょう！』と呼びかけてくださりこともあり、会場の皆さんが生き生きとした表情で歌われるお姿は、見ている側の職員やボランティアのメンバーにとっても、心穏やかなひとときとなっています。この光景をもっと多くの職員に見てもらい、共有していくことができればと感じています。

【ホスピタルコンサート】

- 開催日時：月1回（17:00～17:40）
- 場 所：1階ホスピタルストリート
- 開催回数：8回
- 対 象：患者さん、ご家族、面会の方



毎月開催しているホスピタルコンサートですが、今年度は残念ながら開催を見合わせることもあり、年間で8回の開催となりました。出演して下さった演奏者は初めてお越しいただいた方、二回目

の方、そして、10年連続でご出演いただいた方など、各方面でご活躍の皆さまでした。ホスピタルコンサートでは、病院長や看護部長、常務理事など幹部スタッフから主催者を代表しての挨拶をさせていただいてからコンサートに入りますが、病院長の山口先生からのご挨拶では、先生が登場すると患者さんから拍手が起こることもありました。コンサート会場では常に看護師、看護助手が緊急時のために常に控えており、病院スタッフと患者さん、ご家族、そしてボランティアのメンバーが一緒になってコンサートを楽しむこの時間を病院としても大切にしていければと願っています。

また、コンサートを陰ながら支えてくださっているのは、帝都典禮様、平安祭典様の両社のスタッフの皆さまです。コンサート会場を大きなお花で華やかに飾ってくださるほか、出演されたアーティストの方へ贈呈している豪華な花束、会場設営や片付け、座席への誘導やご案内にもご協力いただいております。この場を借りて、御礼をお伝えしたいと思います。

Piano Duo Souple コンサート

2016年6月10日 開催

【出演者】 Piano Duo Souple : 丸山ひろ子さま・丸山 葉子さま (ピアノ)



当院のBGMタイムや緩和ケア病棟のミニコンサートで演奏ボランティアとして活動していただいている、丸山ひろ子さん・葉子さん親子のPiano Duo Soupleのお二方をお迎えしました。太田常務理事のご挨拶の後、幕開きはエルガーの「愛の挨拶」の連弾から始まり、葉子さんのソロのしっとりとした演奏も聴かせていただきました。後半もお二人の連弾で、聴き馴染みのある曲を沢山演奏していただき、全10曲も演奏していただきました。お人柄を表すような穏やかなメロディーが多く、患者さんも目を閉じて聞き入っている様子でした。最後の「パパゲーノ！」は特殊な編曲で難易度が非常に高いとのことでしたが、親子ならではの息の合った演奏をお聞かせいただき、終了後は会場中が大きな拍手に包まれていました。

白井麻友ヴァイオリンコンサート

2016年7月14日 開催

【出演者】 白井 麻友さま (ヴァイオリン)・石橋 里奈さま (ピアノ)



二度目のご出演となるヴァイオリンの白井麻友さんとピアノの石橋里奈さんによるコンサートを開催しました。力強くテンポの良い、NHK大河ドラマ『真田丸のメインテーマ』を皮切りに、どこか穏やかで懐かしさを呼び起こす『故郷』や映画音楽まで、幅広いジャンルの曲を演奏していただきました。お二人の奏でる美しいハーモニーに深く聴き入り、足でリズムをとられる方や涙を流されながら演奏に耳を傾けられる方などが見受けられ、聴く人の心の中に心地よさや感動をもたらしてくれました。実は、ヴァイオリンの白井さんのご主人は、化学療法科の佐藤先生です。先生の患者さんも沢山聴きに來てくださり、仲の良いお二人に患者さんやスタッフも笑顔がこぼれました。

いのちの調べ

2016年9月16日 開催

【出演者】鈴木 重子さま（ヴォーカル）・Wong WingTsan さま（ピアノ）



長年にわたりホスピタルコンサートにご出演いただいている、ヴォーカリストの鈴木重子さんとピアニストのウォン・ウィンツァンさんのお二人をお迎えしました。開場前からお二人のステージを見るために多くの人が集まり、超満員の中、コンサートは始まりました。鈴木重子さんの力強い歌声とウォン・ウィンツァンさんの優しいピアノで、洋楽や童謡など様々な曲を披露してくださいました。多くの方が二人の息の合ったパフォーマンスにとっても感動して聞き入っていらっしゃいました。コンサート終了時には拍手が鳴りやまず、中にはスタンディングオベーションをされる方がいるほど、大盛況で幕を閉じました。

Piano Duo concert Petite Note

2016年10月21日 開催

【出演者】三神奈理さま・平野玲子さま（ピアノ）



眼科の辻先生のご紹介で、三神奈理様と平野玲子様のお二人をお招きして、ピアノデュオコンサートを開催いたしました。お二人の演奏はもちろんのこと、ソロでもそれぞれ演奏してください、お二人の優しさがあふれるトークと、とても優雅でしっとりとした曲に会場の皆さんも聞き入っていらっしゃいました。印象的だったのは『上を向いて歩こう』の曲では、涙されている患者さんもいらっしゃるほど…、「上を向けば星も見えるでしょう」とコンサートのラストを飾ってくださったのは『星に願いを』の演奏でした。入院患者さんから出演されたお二人に花束を贈呈した後、澆刺として元気になれるような、素敵なアンコールまで演奏していただきました。皆さんに「とても癒された！」と言っていただける温かいコンサートとなりました。本当にありがとうございました！！

JAZZ コーラス Iroha コンサート

2016年11月11日 開催

【出演】Iroha (コーラス)・飯塚 英 (ウクレレ)



11月はジャズ・コーラス・グループ Iroha (いろは) の皆さまと、ウクレレ奏者の飯塚 英さまによるコンサートを開催いたしました。会場のお席も満席でとても楽しみにしている様子が伝わってきました。リズムの変化が楽しい『ハワイアンメドレー』からスタートし、歌に合わせて身体を動かしている患者さんや、拍子をしていらっしゃる患者さんなど、皆さまが笑顔で楽しんで聴いていらっしゃいました。女声3名、男声1名の美しいハーモニーと、弾きながら“魅せる”ウクレレの演奏に会場全体がうっとりとして聴き入っているようでした。コンサートの最後に出演者の皆さまへの花束プレゼンターをしていただいたのは、この日一番に会場にいらした入院患者さんでした。ずっと楽しみにしていたコンサートに来ることができて本当によかった！と、素敵な笑顔を見せてくださいました。

中井智弥二十五絃箏コンサート

2016年12月16日 開催

【出演】中井智弥さま (二十五絃箏)



二十五絃箏奏者の中井智弥さんをお招きして、二十五絃箏と三味線によるコンサートを行いました。お箏でも大変珍しい二十五絃箏を一目見たいと、多くの方が立ちあがって二十五絃箏の演奏を興味深く聞いていらっしゃいました。クリスマス時期ということもあり、お箏でクラシックや賛美歌、ご自身が作曲されたという『紅蓮の炎』など5曲を披露してくださいました。二十五絃箏はお箏の中でも新しい楽器だそうで、日本の楽器ですが、ハープのような音色も出すことができ幅広いジャンルの曲を奏でてくださいました。また、三味線でお座敷唄を3曲披露してくださいました。会場の皆さんも楽しそうに一緒になってお座敷唄を歌われて、笑顔と感動であふれるコンサートとなりました。

溝口 肇チェロコンサート

2017年1月17日 開催

【出演】溝口 肇さま（チェロ）・エミィ トドキシワルツさま（ピアノ）



溝口 肇さんとエミィトドロキシワルツさんをお招きしてチェロとピアノによるコンサートを開催しました。多くの患者さんが会場のオープン前から列を作って待っておられ、いかにお二人のコンサートを楽しみにされているかが伝わってきました。演奏中は、チェロとピアノが奏でる優雅でとても心地の良いメロディーに目を瞑り聴き入っていました。29年続くという、テレビ番組『世界の車窓から』のテーマ曲はあまりに有名ですが、普段はテレビで十数秒しか聴けないこの曲をご本人に全曲を通して、演奏していただいたあのひとは、とても贅沢なものだったに違いありません。コンサート終盤、特別ゲストとして、歌手の小比類巻かほるさんも飛び入りで登場され、素晴らしい演奏に感動した、と清々しい表情で会場を後にされる患者さんが印象的でした。

わたぼうし新春コンサート

2017年2月17日 開催

【出演】春風ひとみさま・前田清実さま・日比野啓一さま・柏木奈緒美さま・河合篤子さま・須藤香菜さま・松本好永さま・萩野恵美子さま



元宝塚歌劇団の娘役スターの春風ひとみさまと、ミュージカル界の名振付師の前田清実さまを中心とした舞台俳優の皆さまによるコンサートを開催しました。宝塚歌劇でお馴染みの『すみれの花咲く頃』の歌声に合わせて皆さんが登場すると、会場の空気も明るく華やかになり、患者さんやご家族も楽しそうに手拍子をされていました。前田清実さんによるダンスは、ご自身のがん闘病経験もお話いただき、一度しかない人生の生きる苦しみや喜びをダイナミックなダンスで表現してくださり、会場の皆さんが強く引き込まれていくのを感じました。出演者の皆さまによる簡単な振付で患者さんも歌いなが踊ったりと、病院のホスピタルストリートがまるで劇場のような雰囲気となりました。

【BGM タイム】

- 開催日時：毎週火曜日（14:00～14:30）
- 場 所：1階ホスピタルストリート
- 開催回数：28回
- 対 象：患者さん、ご家族、面会の方



BGM タイムは演奏ボランティアとして登録しているメンバーが交代で開催し、クラシックからポピュラー、映画音楽やミュージカルソングなど、様々なジャンルの曲を演奏しています。お聴きいただく皆さまに気軽に演奏を楽しんでいただけるように、グランドピアノの近くにお集まりいただいています。

開催時間が診察時間の真っ最中ということもあり、外来フロアは大勢の方が通られるため、大きな音量での演奏はなるべく避けて、マイクの使用やお座席の用意もありませんが、通りすがりに BGM 感覚で楽しんでいただける BGM タイムは入院患者さんだけでなく、外来患者さんやお見舞いにいらした方にも喜んでいただいています。

【緩和ケア病棟ミニコンサート】

- 開催日時：毎週火曜日（14:45～15:15）
- 場 所：12 東緩和ケア病棟デイルーム
- 開催回数：28回
- 対 象：緩和ケア病棟の患者さん、ご家族、面会の方



BGM タイムの演奏を終えると、演奏ボランティアのメンバーは 12 階東の緩和ケア病棟でもミニコンサートを開催しています。このコンサートは入院患者さんのお食事を作っている栄養管理部の協力を得て、ボランティアわかばのメンバーによるティーサービス「お茶会」も合わせて開催されています。緩和ケア病棟の穏やかな雰囲気合うように、BGM タイムでの演奏プログラムとはまた違ったプログラムを用意する演奏ボランティアさんもいらっしゃいます。病状が悪く、患者さんがデイルームまでお越しいただけないこともあります。付き添いのご家族のためだけでも演奏をお届けしています。

《BGM タイムとミニコンサートの月別の開催回数》

開催回数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
BGMタイム	2	2	3	2	2	3	2	3	2	2	2	3	28
ミニコンサート	2	2	3	2	2	3	2	3	2	2	2	3	28

BGM タイムと演奏ボランティアとして登録しているメンバーは 13 名でしたが、スケジュールが合わず、毎週火曜日に予定しているコンサートが開催できないこともあり、2 週間に一度のペースでの開催となることが多くなりました。ボランティアによる手作りのコンサートですが、演奏を聴くことで患者さんやご家族には治療に立ち向かう大きな力となっていますので、できる限りコンサート活動を続けていけるような体制づくりを目指していきます。

2. ボランティアわかばの活動のご報告



エメラルドグリーンのエプロン姿で活動する「ボランティアわかば」では、幅広い世代の方にご登録いただき、「図書」「外来案内」「ソーイング」「外来案内」「お茶会」のグループ活動に加えて、季節に合わせたイベントの他、毎日の活動がスムーズに行えるようにと、ボランティア室内で各活動の下準備やボランティア室の環境整備などの「室内作業」も実施しています。

今年度も新人ボランティアのメンバーをお迎えして、新たに栄養管理部と協力して「お誕生日カードづくり」の活動もスタートし、また新しい一歩を踏み出しました。

登録メンバーの活動参加状況

- ①登録者数：50名
 - * 男性：5名
 - * 女性：45名
 - * 新人ボランティア4名登録



- ②登録者年代：平均年齢 59.8 歳
- ③登録者住所：都内在住の方が約 9 割

都道府県	東京都	埼玉県	神奈川県
人数	44名	4名	2名
%	88%	8%	4%

(都内の内訳)

※病院と同じ江東区にお住まいの方が 1/3

区	人数	区	人数	区	人数	区・市	人数
江東区	17名	渋谷区	2名	港区	1名	豊島区	1名
世田谷区	4名	板橋区	2名	目黒区	1名	葛飾区	1名
大田区	4名	江戸川区	2名	杉並区	1名	調布市	1名
品川区	3名	墨田区	2名	中央区	1名	国分寺市	1名

- ④病院までの所要時間：東日本対震災以降、万が一の災害時に備えて、ご自宅から病院までの交通ルートの確認の意味も含め、所要時間をお知らせいただいています。ご自宅から距離が近い方ほど、活動にも定期的に積極的にご参加いただいています。活動を継続するには、自宅からの距離や所要時間、通いやすさもポイントとなりますので、新しいメンバー募集の際も参考にしています。

所要時間	30分以内	31～60分	61～100分	100分以上
人数	21名	19名	8名	2名

⑤当院での治療歴：**治療歴なし（30名）、治療歴あり（20名）** ※治療歴ありは健診を含む

2014年より活動要件に治療中の患者さん、ご家族のボランティア参加規程が設けられました。がんを経験された患者さんやご家族は、治療中の患者さんの一番の応援団になっていただけたと思いますが、患者さんの場合はまずご自身の治療に専念していただくこと、患者さんのそばで一番の支えになっているご家族の場合には心にも身体にもゆとりを持っていただきたい…、と願って、患者さんの場合は治療後3年経過、また、がんでご家族を看取られたご遺族の場合は3回忌を終えてから（看取ってから2年以上経過してから）の方お願いしています。

ボランティア活動に参加するには、時には冷静さも必要です。思い入れが強すぎると、かえって活動に支障が出てしまい、患者さんやご家族から『親切の押し売りボランティア』と言われてしまうこともあります。さりげなく気遣いのできる方にメンバーとしてお力を貸していただきたいと考えておりますので、がん研のボランティアに参加される方には、ご自身の心と身体のバランスを保つため、そして、より良い活動を実施するために、最低でもこの位の期間が必要だと、医師や看護師などの専門スタッフとも検討して、募集の際にはこちらの参加要件をお伝えしています。

⑥活動時間数：主に活動する曜日・時間帯・活動内容を決めていただいでのご参加をお願いしておりますが、活動日や活動内容によって参加人数に偏りがあります。

曜日を固定せずに、フリーでご参加いただく方には、できるだけ空き状況が多い日程でのご参加にご協力いただいております。

月	活動実日数	活動延人数	活動総時間数	平均活動時間数	実活動者数	1日平均活動者数	活動率(%)
4月	20	99	359:37	3:37	43	4.95	93.48
5月	17	94	363:50	3:52	38	5.53	76.00
6月	22	137	517:02	3:46	43	6.23	90.00
7月	20	114	425:32	3:43	45	5.70	78.00
8月	13	77	293:45	3:48	39	5.92	86.00
9月	18	92	331:44	3:36	43	5.11	90.00
10月	20	106	391:06	3:41	45	5.30	86.00
11月	20	112	462:00	4:07	43	5.60	78.00
12月	16	101	418:29	4:08	40	6.31	80.00
1月	16	85	323:11	3:48	39	5.31	78.00
2月	20	105	408:48	3:53	40	5.25	80.00
3月	22	122	458:29	3:45	42	5.55	84.00
計/平均	224	1,244	4,753:33	3:48	41.7	5.16	83.96

※活動率は月1回以上の参加で計算

- ☞ 参加日数：40日以上（9名）、30日以上（11名）
- ☞ 参加時間数：300時間以上（2名）、200時間以上（2名）
- ☞ 参加条件（月2回以上の参加）：半数の方はクリア
- ★最高67日
- ★最高346時間

参加時に記入していただく活動記録 IN/OUT の時間より計算しておりますが、ご自宅で活動準備や作業をしてくださる方もいらっしゃるため、数字では表せない部分の活動も多くあります。多くの時間を活動に割いていただき、本当にありがとうございます。

新人ボランティア募集・説明会・面談



例年と同様に3月より約1ヶ月ほど、ボランティア募集を行いました。がん研のWebサイトや日本財団、東京ボランティア市民活動センター等の各種ボランティア募集のサイトへの掲載、江東区ボランティアセンターにもご協力いただいて募集しましたが、応募状況は10数名と非常に少ない人数となりました。

大きな行事やマラソン、チャリティーイベント等の単発で行われるイベントのボランティアへの応募は、あっという間に定員に達するようですが、病院ボランティアへの応募は、他の病院でもなかなか集まりにくい状況になっているようです。



4月11日(月)に説明会を開催、その後、ボランティアにご応募くださった方との個別面談を実施して、ご応募いただいた方のこれまでのご経験や希望する活動をお伺いし、病院がお願いしたい活動との擦りあわせを行いました。ご応募いただいた方の熱意はあっても、病院として実施できない活動や患者さんご家族からのニーズがない活動などのお申し出もいただき、残念ながら病院としてはお断りせざるを得ない方もいらっしゃいましたが、せっかくボランティアに参加しようと思われた気持ちを大切にいただき、また違った形でがん研をご支援いただけないか、あるいは別のボランティア活動でその方の力を活かせるのでは

ないかとお勧めしました。

以前活動してくださっていたメンバーからの再応募もあり、またがん研のボランティア活動に参加しようと思っていただけたことは非常に嬉しいことで、病院として安心して活動をお任せできるメンバーの方を4名お迎えすることができました。

新人ボランティアオリエンテーション・ボランティア研修会



ゴールデンウィークが明けてすぐ、5月9日(月)に研修会を開催しました。新人ボランティアの方は、初めてのことに緊張されている様子でしたが、丸一日、オリエンテーションと研修会に参加され、熱心に病院ボランティアとしての知識を学ばれる様子に、頼もしい方にメンバーになっていただいたと感じました。

また、先輩ボランティアの方にも、これまでの活動の振り返りや再確認の意味も込めて、新人ボランティアさんと一緒にご参加いただくようお願いしておりましたが、先輩ボランティアの方の参加が少なかったことは非常に残念なことでした。



活動を長く続けると、同じことの繰り返し…と活動がマンネリ化してくることもあると思います。慣れが出てしまい、思わぬ事態が起こることもあります。過去に研修会に参加したと言っても、毎年、変更点も出て参りますので、このような研修の場に、ぜひ積極的にご参加いただき、より良い活動に繋げていけるように、気づきの場としても大事な機会としていきたいと思います。病院側もこの研修会を通じて、ボランティアの皆さんから色々なご意見を伺いたいと思いますので、次年度では開催日程も考慮して、ボランティア全体研修会としたいと考えています。

図書（月～金曜日：午前・午後）



午前は病棟図書、午後は外来図書の消毒作業と整理整頓を毎日実施しています。図書は全て寄贈本で運営しておりますが、457名の方から6,499冊もの寄贈数となりました。寄贈していただいた方へは感謝の気持ちを込めて、お礼状もお送りしています。貸出数は、返却BOXに返却される冊数だけでも月平均1,500冊です。

皆さまからのご好意によって支えられる活動ですが、寄贈本の配置場所を指定される方も増えていますので、図書を寄贈していただくにあたってのお願いを明示する必要も出てきました。

外来案内（月～金曜日：午前・午後）

※医事課と協力しての活動



患者さんが来院された時にまず立ち寄るのが、正面入口を入ってすぐの場所にある受付機、診察や検査を終えてお会計をするために、最後に立ち寄るのも、受付機と並んで配置されている精算機です。

この場所で「病院の顔」として医事課のスタッフや看護師と共に、ボランティアのメンバーがにこやかに対応することで、雰囲気は温かくなっています。職員にとっても、ボランティアさんの対応の仕方や笑顔は見習うべきことが多く、スタッフからもボランティアさんがいらっしやらないと淋しい、という声も出ています。

お茶会（火曜日：午後）

※緩和ケア病棟・栄養管理部と協力しての活動



緩和ケア病棟と栄養管理部と協力して開催するお茶会は、演奏ボランティアのミニコンサートと合わせて開催するため、患者さんやご家族も楽しみにしてくださっています。担当のメンバー4名が季節に合わせて、目でも楽しめるようなお菓子を選んできてくれて、

午後のひとときを穏やかに過ごしていただけるよう病棟スタッフとも協力しながらティーサービスを実施しています。演奏ボランティアとわかばのメンバーのスケジュールが合わず、毎週の開催がなかなか難しくなってきましたが、美味しくお茶を召し上がっていただけるように、マグカップのデザインもお出しする患者さんやご家族に合わせて、一回一回を大切に活動しています。

(お茶会開催記録)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
月間開催数	2	2	3	3	2	3	2	2	2	2	2	3	28
わかば参加人数	7	5	9	9	5	7	5	5	4	6	7	8	77
ミニコンサート開催数	2	2	3	3	2	3	2	2	2	2	2	3	28
患者さん人数	27	16	31	16	13	25	21	27	22	13	13	34	258
ご家族・面会者人数	31	17	38	29	10	25	14	15	21	18	25	28	271

ソーイング (水曜日 : 午前・午後)



メンバーはたった 1 名となりましたが、室内作業で行う尿瓶キャップの布を裁断したり、温かみのある生地を使用して患者さんがご不快な思いをされないように尿パックカバーやドレーンのポシェット、特注品や修理等、94 点作製しました。看護部の WOC 担当から、患者さんが入院中に使用している長いスネイククッションを半分のサイズにリフォームしたいとの依頼を受け、身長の高さほどあるクッションを半分にカットし、カバーのサイズも変更しました。クッションの中身は、やわらかい細かいビーズが沢山入っていたため、ボランティアさんの手もビーズだらけになりましたが、患者さんに心地よく入院生活を送っていただけるように、丁寧に作製しました。

【払出状況】

病棟	尿瓶キャップ	尿パックカバー	ドレーンポシェット	特注品・修理	内容
看護部				34	スネーククッションリフォーム
外来				3	タオルケット修理
ICU					
5東	812	10			
5西	10				
6東	10				
6西	30				
7東	40			3	カーテン修理、クッションカバーリフォーム
7西	70	20		1	クッションカバーリフォーム
8東	10	10	3		
8西	70				
9東					
9西					
10東	120			5	車椅子用ポケットカバー
10西					
11東	130				
11西	70				
12東	50				
12西	70				
リネンセンター				5	カーテン修理
計	1,492	40	3	51	合計 : 1,586
			94		

折り紙を楽しむ会 (木曜日 : 午後)



新しいメンバーも加わり、4 名の担当メンバーで年間 43 回開催し、265 名もの方にご参加いただきました。患者さんやご家族の参加型の活動は限られていますので、非常に楽しんでくださっています。活動は病棟 8 階デイルームで開催しているため、外来患者さんが病棟へ上がって来られることや患者さんがお子さんを一人で折り紙の活動に参加させて、ご自身は診察を受けに外来へ行かれる、という問題も起こり、参加される患者さんやご家族への対応方法を今後病院としても考えていく必要が出てきました。

コンサートサポート



病院行事として開催しているホスピタルコンサートや演奏ボランティアによるBGMタイム、ミニコンサートの運営サポートもボランティアわかばのメンバーが担当しています。素晴らしいコンサートを記念に残したいというお気持ちはわかりますが、このところ、

患者さんやご家族による携帯電話やスマートフォンの使用、写真や動画の撮影をされる方が多くなり、患者さんのプライバシーを守るためにも、職員と一緒に会場全体を見渡、鑑賞中に注意をしています。

お誕生日カードづくり (毎月1回)

※栄養管理部と協力しての活動

2016年10月にスタートした新しい活動です。入院中にお誕生日を迎える患者さんのために手作りのお誕生日カードを毎月50枚、用意しています。管理栄養士や調理師の手で朝食トレイにお誕生日カードがのせられ、病棟スタッフが患者さんのお手元にお届けしています。患者さんが喜んでくださる姿を直接ボランティアのメンバーが目にはできませんが、ボランティア支援室から栄養管理部、病棟スタッフの手を通して、患者さんにステキなお誕生日をお過ごしいただけるようにと願い、心を込めて作っています。



室内作業 (月～金曜日：午前・午後)



ボランティア室内では、図書のカバーかけや寄贈本の受付、尿瓶キャップの作製、活動時に着用するメンバーが着用するエプロンのアイロンかけ、活動記録のデータ入力、パソコンを使用しての資料作成のほか、イベント準備もメンバーで手分けして実施しています。それぞれのメンバーが得意分野を活かした活動ができるよう、室内作業でやっていただきたい活動内容をリストアップし、優先順位をつけて掲示しておくことでメンバーが自主的に活動しています。ボランティア室内の活動は、患者さんやご家族の前で活動しているわけではないため、目立たない活動ですが、外部からの問い合わせ電話や他部署のスタッフが訪問したときも、笑顔で対応してくれるボランティアさんの存在は、とても心強いです。室内活動だけのご参加も有難いですが、室内作業を希望される方が増え、肝心の図書や外来案内などのメンバーが不足することも出てきましたので、まずは毎日実施している活動を優先してご参加いただくようお願いしています。

乳癌学会開催告知のお手伝い

6月に乳腺センター乳腺外科部長の岩瀬拓士先生が会長をされた第24回日本乳癌学会が東京ビッグサイトで開催され、がん研でも様々な部署が協力しました。ボランティアわかばのメンバーにも、乳がんを経験された方が多いことから、

『乳がん患者のためのフェスティバル』の開催告知をお手伝いさせていただきました。デイルームの掲示板や活動で使用しているディスプレイを活用して、ポスター掲示やチラシの配布など、毎日メンバーが確認、補充しました。

学会終了後、岩瀬先生がボランティア室までお越しくださり、メンバーに直接御礼の言葉をかけてくださいました。学会のピンバッチまでプレゼントしていただき、岩瀬先生の優しいお気持ちにメンバーも非常に感激でした。



イベント

活動の目的にも掲げている季節の風とお届けしようと、ボランティア支援室で様々なイベントを企画しています。ボランティアわかばのメンバーはグループ活動の枠を越えて参加し、色々なアイデアを出し合いながら、患者さんやご家族にホッとできる時間や場所をお届けすることができるよう心がけて活動しています。イベント開催にあたっては、帝都典禮株式会社さま、日本サービスセンター平安祭典さまの社員の皆さまにも多大なるお力を貸していただいております。

■ 端午の節句 (4/20~5/6)



1階ホスピタルストリートの100周年コーナー脇に五月人形を飾り付けました。ガラス張りのケースに入った五月人形のため、周りに囲いをつけての展示となりましたが、メンバーがホスピタルストリートを通る時にはこの人形についているオルゴールのぜんまいを回して、『屋根より高い鯉のぼり』の曲を流し、患者さんやご家族にもご覧いただきました。だいぶ古い人形ですので、大事に飾り付け、保管をしています。

■ 七夕笹の設置 (7/1~7/8)



大きな笹を2か所設置し、ホスピタルストリート中央に七夕コーナーを設置しました。手作りの短冊を3,000枚作成して、沢山の方に願いごとを書いていただき、期間中に2,039枚の短冊が笹に結びつけられました。患者さんの励みになれば…と先生方やスタッフにも短冊にメッセージを書いていただいたところ、素敵な企画だと患者さんやご家族が大変喜んでくださいました。

■ 七夕短冊のお焚き上げ (7/22)



新しくボランティア支援室の室長に就任した奥村先生とボランティアのメンバーで門前仲町にある富岡八幡宮にお焚き上げを依頼しました。富岡八幡宮は病院の建設時の竣工式でもお世話になっている氏神様、短冊に書かれた願いごとが叶いますようにと手を合わせてきました。

■防災訓練 (9/6)



病院全体で行われる防災訓練に参加し、起震車に乗って震度 7 の地震を体験しました。東日本大震災発生時は、ちょうどボランティアの活動時間中でしたので、それ以降、緊急災害時の対処方法も定めて参りましたが、各グループで様々な活動を並行して実施しているため、万が一、活動中に緊急災害が発生した場合の避難ルートの確認と、集合場所が病院棟 1 階のグランドピアノがある 100 周年コーナーであることを再確認しました。

■クリスマスカードづくり (9月~12月)



今年のクリスマスカードは、サンタクロースの衣裳をイメージしたカードです。クリスマスに入院されている患者さんにお届けするために、毎年、真夏の暑い時期から準備し、12月初旬には各病棟にお配りしています。担当の先生や看護師が患者さんお一人お一人にメッセージを書いて入院患者さんにお渡ししていますが、病棟スタッフもカードにデコレーションを加えて、温かい手作りのクリスマスカードになりました。

■クリスマスツリー展示 (12/7~12/26)



平安祭典様のご協力で 1 階ホスピタルストリートに大きな生のモミの木のクリスマスツリーを飾り付けしていただきました。昨年よりも華やかな飾りをつけていただき、皆さんに喜んでいただきました。寒い中を病院にいられて、2 階へとエスカレーターに乗りながらこのクリスマスツリーをご覧になる患者さんやご家族がにこやかな表情を浮かべてくださると、こちらまで嬉しく温かい気持ちになります。

■ボランティアチャリティーSHOP (12/2)



2009 年に職員向けに開催したバザーが前身のこの SHOP は、患者さんにお買い物を楽しんでいただけるように、温かみのある手作りの品物を販売して、ボランティア活動も PR する目的で患者さん向けに開催するようになって 7 回目となりました。がん研究や治療、そして患者さんのために役立てていただこうと、売上金は全額をがん研に寄付しています。お買い上げくださった皆さま、本当にありがとうございました。

(*売上: 400,800 円 *来客数: 336 名 *出品数: 1,720 点 *販売数: 1,177 点)

■サンタクロース訪問イベント (12/24)



入院患者さんにクリスマスカードとミニバッグのプレゼントをお届けにサンタクロースが病室訪問しました。今回、病院長の山口先生、ボランティア支援室長の奥村先生にもサンタになっていただき、外来患者さんにもご挨拶をしに院内を周りまわりました。サンタ姿の先生に気がつかれない方もいらっしゃいましたが、「院長サンタがお邪魔します」と声をかけると、患者さんやご家族も大喜び、あっという間に笑顔になりました。

■桃の節句 (2/19~3/9)



患者さんやご家族に桃の節句を楽しんでいただこうと、七段飾りのひな人形を 1 階ホスピタルストリートに展示しました。飾り付けを担当してくれたメンバーも自宅では飾り付けはなかなかしないということもあり、お道具の並べ方やお人形の持ち物などは、一つ一つ説明書を見ながら慎重に飾り付けしました。37 年前のお人形ですので、屏風が壊れたり、色が褪せたりしていますが、大切に保管していきたいと思っております。

3. ボランティアフォーラム参加のご報告

初の試みとして、ボランティア登録をされているボランティアわかばのメンバー、演奏ボランティアのメンバーにお声がけをして、医療に関わるボランティア活動をテーマにした研修会『ボランティアフォーラム』に参加しました。

このボランティアフォーラムは、小児がんや難病のお子さんをご家族を支援している、公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウスチャリティーズ・ジャパンによる『ドナルド・マクドナルド・ハウス誕生 15 周年記念～ボランティアフォーラム～』で、世田谷の国立成育医療センターで開催されました。

【開催趣旨】

1995 年の阪神・淡路大震災からボランティア活動が日本に定着し始め、今では学生からご年配の方まで幅広い世代の方が多種多様なボランティア活動をされていますが、そのような中で医療に関わるボランティア活動も広がりを見せており、社会の関心も高くなっています。そこで 15 周年の節目に医療を支えるボランティアについて考えるフォーラムを開催いたします。ボランティア活動に関わる皆さまの平素の活動を振り返る良い機会になると思いますのでぜひご参加ください。

【日時】 2016 年 12 月 1 日 (木) 11:00～12:30

【場所】 国立成育医療研究センター講堂
(東京都世田谷区大蔵 2 丁目 10-1)

【募集人数】 150 人

【プレゼンター】

- ◆ 「スポーツを通じてのチャリティー活動」 北澤 豪氏 (元サッカー日本代表)
- ◆ 「企業としての使命」 サラ・カサノヴァ氏 (日本マクドナルド株式会社 CEO)
- ◆ 「ボランティアが医療に与える影響」 五十嵐隆氏 (国立成育医療研究センター理事長)
- ◆ 「日本のボランティア活動」 大石剛史氏 (国際医療福祉大学)
- ◆ 「医療に携わるボランティア」 (パネルディスカッション)
 - 長瀬淑子氏 (ドナルド・マクドナルド・ハウス財団理事)
 - 秋山正子氏 (マギーズ東京 センター長)
 - 内多勝康氏 (もみじの家 ハウスマネージャー)
 - 病院ボランティアボランティアコーディネーター他

【司会進行】 宮田佳代子 (フリーアナウンサー)

**ドナルド・マクドナルド・ハウス誕生15周年記念
ボランティアフォーラム
～参加者募集のお知らせ～**

1995年の阪神・淡路大震災からボランティア文化が日本に定着し始め、今では多種多様なボランティア活動が行われております。そのような中、医療に関わるボランティア活動も広がりを見せており、社会の関心も高くなってきております。医療を支えるボランティアについて私たちと一緒に考えてみませんか。

プレゼンター

- ・「スポーツを通じてのチャリティー活動」 北澤豪氏 (元サッカー日本代表)
- ・「ボランティアが医療に与える影響」 五十嵐隆氏 (国立成育医療研究センター理事長)
- ・「日本のボランティア活動」 大石剛史氏 (国際医療福祉大学)
- ・「医療に携わるボランティア」 (パネルディスカッション)
 - 長瀬淑子氏 (ドナルド・マクドナルド・ハウス財団理事)
 - 秋山正子氏 (マギーズ東京 センター長)
 - 内多勝康氏 (もみじの家 ハウスマネージャー)、病院ボランティアボランティアコーディネーター他

司会進行: 宮田佳代子 (フリーアナウンサー)

※フォーラム後にドナルド・マクドナルド・ハウス、せたがやの昇学会および懇親会を予定しています。
※当日は、報道関係者がありますのでご了承ください。

■日時
12月1日(木) 11:00～12:30

■場所
国立成育医療研究センター講堂
住所: 東京都世田谷区大蔵 2 丁目 10-1

■募集人数
先着150名 ※定員になり次第、締め切らせていただきます。

■お申し込み方法
名前、連絡先をご記入の上、11月24日(木)までにメールにてお申込みください。
Mail: donald_mcdonald_house_charities@yahoo.co.jp

～ドナルド・マクドナルド・ハウスとは～
ドナルド・マクドナルド・ハウスは遠方から入院する子どもとその家族のための滞在施設です。ハウスの運営は地域のボランティアと法人、企業の協力の奉仕や寄付で成り立っております。2001年に東京都世田谷区に国内第1号のせたがやハウスが誕生し、現在11ハウス開設されております。

■お問い合わせ先
公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウスチャリティーズ・ジャパン TEL: 03-6911-6068

がん研では新人ボランティアさんをお迎えするのに合わせて、毎年ボランティア研修会を開催していますが、現在の活動をより良くするためにもボランティアさんにご参加いただき、医療を支えるボランティアについて、一緒に考えていきたいという考えのもと、室長の奥村先生を始め、ボランティアコーディネーターの柴田とボランティア支援室兼務で総務課の大竹、ボランティアわかばからは5名のメンバーが出席しました。

国立成育医療研究センターでの講演では、スポーツ選手や企業のトップの方、医療スタッフやボランティアに関わる様々な立場の方が登場され、ボランティア活動やチャリティー活動への思いなど沢山のお話を聞くことができました。また、他の病院で活動するボランティアさんのお話し、がん研の近くにできたがん患者さんご家族をサポートするマギーズ東京の秋山代表理事からのお話しは、がん専門病院での活動を実施しているボランティアのメンバーにとっても、大変勉強になるものでした。



講演をされたプレゼンターもフォーラムに参加されている方も、皆さんそれぞれ環境や立場も異なりますが、『病院ボランティア』として心がけていることは、患者さんやご家族の気持ちを和らげて、できるだけ雰囲気明るくさわやかにすること、そして、ボランティアに参加する自分自身が活動を通じて人間的に成長することを大切にしているということ改めて学ぶことができました。これまで、他の病院や施設でどのような活動が行われているのか、ボランティアのメンバー自身が知るチャンスがあまりなかったため、フォーラムに参加したことは良い経験となり、今後の活動に活かしていきたいと思えます。

講演終了後は、国立成育医療センターに隣接している、『 دونالد・マクドナルド・ハウスせたがや』の見学会にも参加しました。ハウスマネージャーより、利用方法や利用されるご家族の状況、病院との連携、ボランティアの関わり方などをご説明いただきました。建設費用やハウスの運営は、全て皆さまからの善意の気持ち、寄付や募金、物品の寄贈などで行われていることに、非常に驚いた様子でしたが、『ひとり一人の力は小さくても、その力が集まれば大きくなる』ことを実感することができました。

最後にハウス入口にある募金箱にも参加者それぞれで募金をさせていただき、その御礼に！とマクドナルドでお馴染みのキャラクターのドナルドがはいている赤と白のシマシマの靴下をいただきました。この募金がハウスの運営や難病のお子さん、ご家族のために少しでもお役に立ちますように…と心から願っています。



4. 交流会・懇親会のご報告

2011年より毎年、季節のイベントに合わせて交流会や懇親会を開催しておりますが、今年度は年間で4回開催することができました。病院としても日頃から活動していただいているボランティアさんに少しでも感謝の気持ちをお伝えできる場ですので、大切な機会と考えています。

新人ボランティア交流会

[5月9日開催]



新人ボランティアのメンバーがこれからの活動にスムーズに参加できるようにオリエンテーションと研修会終了後に開催しました。今回は、病院長の山口先生、清水看護部長とボランティア支援室に兼務として配属された新入職員と先輩ボランティアも出席しての交流会となりました。病院の幹部スタッフがこのような席に参加したことは、新人ボランティアさんにとっても大変嬉しいことだったので、活動へのやる気に繋がったと言っていました。

暑気払い

[7月22日開催]



七夕短冊の奉納後、門前仲町の深川めしが評判の「門前茶屋」にて暑気払いを行いました。今回でお世話になるのは4回ですが、新旧のボランティア支援室長と兼務の職員、ボランティアわかばメンバーで、美味しいお食事をいただきながら、日頃の活動のこと以外でも話が盛り上がり、楽しいひとときとなりました。毎回お店の特典で出している日本酒「八海山」の一升瓶が、今回初めてすべての飲みきり、お酒の強いメンバーが多いことも驚きでした。

忘年会

[12月2日開催]



初めてボランティアの皆さんとの忘年会を開催しました。年末で、夜の開催、ボランティアチャリティーSHOPを開催した後ということもあり、参加されたメンバーは非常に少なかったですが、SHOPを無事に終えた達成感と一年間、充実した活動ができたことを振り返りながら、色々なお話しができました。ボランティアの皆さんと過ごす、このような時間からも様々な情報をいただいたり、新しいアイデアが出されたり、来年もぜひ開催しようというお声があがりました。

クリスマス会&納会

[12月22日開催]



年内の活動最終日に開催したサンタクロースの病室訪問イベント終了後、興奮も冷めやらぬ中、ボランティア室でクリスマス会を行いました。室長の奥村先生から今年の活動も無事に終えることができ、ボランティアの皆さんの活動がどれだけ患者さんやご家族を勇気づけているか、感謝の気持ちを直接お伝えしました。患者さんの治療にあたる医療スタッフとボランティアとの考え方の違いもありますが、双方がお互いに尊重しながらより良い活動をしていきたいと決意を新たにしました。

5. ちょこっとボランティアのご報告

ボランティア受入体制も整い、組織立てた活動ができることになりましたが、より良い活動に繋げていくためには、やはり病院職員の理解と協力が必要であると感じます。これまでもボランティア活動の内容を院内の掲示板やデジタルサイネージなどを活用して、ボランティア支援室から様々な情報発信をして参りましたが、職員にもっとボランティアを身近に感じていただけるように、『Wish List』として活動に必要な物品をリストアップして、「皆さんのお近くで眠っている品物がありましたら、患者さんやご家族のために有効に活用しますのでぜひご提供ください。リストの品物以外でもボランティア活動で活用できる品物があるかもしれませんので、お気軽にご相談ください。お待ちしております。」と、呼びかけて参りましたが、この内容を少し工夫させて、『ちょこっと ボランティア』として新たな形での呼びかけを行いました。

ボランティアに参加するのは、“ハードルが高い”というイメージを持つ方もいらっしゃるかもしれませんが、ボランティアには労力や時間の提供以外にも資金や物品の提供など様々な形があります。今すぐ始められて、身近なところで自分にできることを気軽に無理なくお手伝いすること、それが「ちょこボラ(ちょこっとボランティア)」です。

ちょこボラ

～今すぐ始められて身近なところで気軽にできるお手伝い～

ちょこっとボランティア、始めませんか？

ボランティアには労力や時間の提供以外にも資金や物品の提供など様々な形があります。今すぐ始められて、身近なところで自分にできることを気軽に無理なくお手伝いする『ちょこボラ(ちょこっとボランティア)』ご協力をお願いします。

ボランティア活動で使用する物品を募集しています。ご自宅や職場などお近くで眠っている物はありませんか？患者さんのために有効に活用しますので、ぜひご提供ください。

【文庫本・単行本・マンガ本・写真集】
(古本でOK) 本の状態や内容によって、配置できない場合もありますが、まずはご届出ください。

寄附された本は一段ずつカバーをかけ、病院ダイアリーや外来待合室近くの本棚に記載しています。返却された本は消毒をして、整理整頓して、天山の患者さんやご家族に届けていたいたします。

【書き損じはがき】【未使用はがき・未使用切手】
(返信用はがき、返信用封筒の切手で500枚)
使用済み切手は、他の団体への寄附となります。

郵券や物など、活動で必要な品物を寄附してくださった患者さんやご家族、一般の方へお礼状を発送するために、はがきや切手に交換しています。

【カラーのサインペン・マジックペン】
(新品のみでOK)

7月に開催する七夕イベントでは、福袋をボランティアあわびのメンバーが作成し、その福袋に患者さんやご家族が思いこころを書かれます。天山の思いが詰まった福袋は、毎年2,000枚を超える数となり、患者へ福袋にお返しを継続しています。

【木綿の布 (25×25cm以上)】
【BOXティッシュの空き箱】
(BOXティッシュと同じ位の厚さの厚紙・お菓子の空き箱でOK)

入院患者さんが使用される服薬キャップの材料として素材でも有効に活用しています。年間約1,500個作成し、病棟へ払い出しています。








がん研ボランティアシンボルマーク
かこのハサミが“Volunteer”の「V」マークを盛り、
2つのかこのハサミは手と手を繋ぐ思い、
助け合いをイメージしたシンボルマークです。

【問い合わせ先】
ボランティア支援室 柴田がおり (PHS:7346)

これまで病院の先生方をはじめ、看護師や助手、研究所の職員の方から様々な物品をご提供いただき、ボランティア活動でも大変役立っています。活動では毎年限られた金額ではありませんが、活動の運営費として予算をいただいておりますが、ちょこボラで募集した書き損じはがきや未使用切手の提供を多数いただいたことで、患者さんやご家族へお礼状を発送する際のハガキや切手代が1年分相当集まり、その分の予算を他の活動にまわすことができました。

ボランティアのメンバーにとりましても、職員から協力を得られることはとても嬉しいこと、患者さんやご家族から『ありがとう』という感謝の言葉を頂戴するのと同じように、大きなパワーとなっています。

この活動は、患者さんやご家族など病院の外部に広めていくこともいづれできればと考えていますが、まずは、職員へのボランティアの啓蒙活動の意味で院内に限定させていただいております。今後も活動に必要な物品を定期的に募集実施していきたいと考えています。引き続き、ご協力を宜しくお願いいたします。

6. 活動費、募金・寄付のご報告

①ボランティア活動費（年間：700,000円 + 前年繰越金 2,654円）

コンサート、ボランティアわかば、外部団体の受け入れを限られた予算で運営し、活動別で下記の支出となりましたので、ご報告いたします。

ボランティア支援室 平成28年度活動費報告						
(単位:円)						
区分	活動別	予算	支出	差額	備考	
前年度繰越額	—	2,654			前年度予算残額	
コンサート	ホスピタルコンサート BGM・ミニコンサート	80,000	121,749	-41,749	演奏者CD、写真用紙、POP材料、お茶菓子等	
外部団体受け入れ	カットボランティア等	5,000	0	5,000	お茶菓子等	
わかば	図書	100,000	64,674	35,326	カバーかけ用フィルムルックス、欠巻本等(※1)	
	ソーイング	20,000	13,044	6,956	生地、糸、マジックテープ等	
	折り紙会	7,000	4,028	2,972	折り紙材料	
	外来案内(医事部サポート)	3,000	610	2,390	掃除用具(※1)	
	お茶会(緩和ケア病棟サポート)	60,000	46,289	13,711	コーヒー・紅茶・お茶・コンディメント、お菓子代(※1)	
	カードづくり(栄養管理部サポート)	25,000	35,998	-10,998	お誕生日カードづくり	
	イベント	七夕	5,000	3,000	2,000	七夕短冊材料、お焚き上げ初穂料
		Xmasカードづくり	20,000	32,804	-12,804	Xmasカード材料
		チャリティーSHOP	30,000	40,837	-10,837	SHOP材料
		Xmasイベント(サンタ)	75,000	71,247	3,753	入院患者さんへのXmasプレゼント、ラッピング材料費
ボランティア活動全般	会議費	120,000	110,332	9,668	ボランティア交流会・懇親会	
	雑費・消耗品費	150,000	165,205	-15,205	文房具(インク代・のり・テープ)、洗剤等の消耗品(※1)	
合計		¥702,654	¥709,817	-7,163	次年度予算より差引	

※1: 図書や外来案内、お茶会等で使用している消毒用のエタノール、ガーゼ、エタコト、検査用手袋の他、ボランティア室で使用しているペーパータオルやティッシュ、手指用消毒アルコールは、購買課からの支給のため、上記支出には含まない。

※今年度より、新たにスタートしたお誕生日カードづくりの活動用に調達した材料、イベント費用が予算を超過したため、次年度の予算より差し引かれる予定です。

②ボランティアわかば募金（募金額：81,147円）

2016年3月末時点でボランティア室でお預かりしている募金額です。ブックオフでの古本の買取金やボランティアチャリティーSHOP終了後に在庫の品物をボランティア室で継続して販売した売上金の総額です。10万円を超えたら寄付金として募金課に寄付し、がん治療を受けられる患者さんのため、また、ボランティア活動でも有効に使わせていただきます。

③募金箱設置&募金活動PR

院内にも募金箱が設置されていますが、ボランティア室内にも募金課のがん研究・医療推進募金箱を常時設置して、募金にもご協力いただきました。また、募金課からのご支援のお願いや募金活動の情報をボランティアメンバーにも伝えたほか、毎月のホスピタルコンサートで募金活動のチラシをコンサートのプログラムと一緒に配布したりと、募金活動のPRにも協力しました。



④ブックオフへの図書買取り金額（冊数：1,786冊、金額：78,654円）

大変有難いことに多数の寄贈本をいただくようになり、本棚やキャパシティーをオーバーしたため、患者サービス委員会で了解を得て、寄贈本をブックオフへ買取りを依頼しています。買取り金は、全額「ボランティアわかば募金」に加え、金額がまとまった時点でがん研へ寄付しています。ボランティア活動で有効に使えるようにして、図書カバーかけで使用しているフィルムルックスの購入費用や本棚の購入費用に充てています。

<参考> フィルムルックス価格（定価）大サイズ：約¥10,000 / 小サイズ：約¥8,000
2016年購入分（大サイズ：5本、小サイズ：10本）

No	日付	箱数	書籍		コミック		CD、DVD		その他		合計		値段がつかなかった数
			冊数	金額	冊数	金額	枚数	金額	冊数	金額	冊数	金額	
1	4月6日	2箱	81	4,015	5	204	1	30			87	4,249	52
2	4月26日	2箱	52	2,827	14	684					66	3,511	74
3	5月25日	2箱	87	2,889	31	438					118	3,327	52
4	6月22日	3箱	105	3,111	7	225					112	3,336	100
5	7月14日	2箱	62	2,258	4	30					66	2,288	69
6	8月31日	5箱	126	3,283	14	343	1	441			141	4,067	212
7	10月6日	2箱	51	3,997	1	10					52	4,007	82
8	10月28日	5箱	152	5,093	48	438					200	5,531	153
9	11月18日	2箱	42	3,973	26	899					68	4,872	22
10	12月14日	5箱	163	7,094	33	1,152					196	8,246	147
11	2月16日	10箱	254	12,937	30	2,049	4	2,754			288	17,740	341
12	2月28日	5箱	82	4,772	3	35					85	4,807	123
13	3月9日	4箱	96	4,127	40	576					136	4,703	134
14	3月22日	6箱	153	7,609	18	361					171	7,970	221
合計											1,786	78,654	1,782

⑤寄付金（金額：500,000円）

ボランティアチャリティーSHOPでの売上や図書の買取り、ボランティアわかば募金を合わせまして、50万円を募金課に寄付しました。これまでの寄付総額も400万円近くになりました。

No	年	月日	金額	寄付先	備考
1	2009	7月6日	¥100,000	新有明特別募金	ボランティア室わかば募金より
2	2009	12月21日	¥134,500	手術室募金	ボランティアバザー（職員 & ボランティア対象）
3	2010	10月16日	¥100,000	がん研究医療推進募金	ボランティア室わかば募金より（わかば活動開始5周年記念）
4	2010	12月16日	¥320,700	がん研究医療推進募金	ボランティアチャリティーSHOP（初の手作りSHOP）
5	2011	10月18日	¥100,000	高度医療基金整備募金	ボランティア室わかば募金より（ブックオフ買取り他）
6	2011	12月22日	¥500,000	がん研究医療推進募金	ボランティアSHOP
7	2012	12月14日	¥500,000	ボランティア寄付金	ボランティアSHOP、ボランティア室わかば募金より（ブックオフ買取り他）
8	2013	8月8日	¥100,000	ボランティア寄付金	ボランティア室わかば募金より（ブックオフ買取り他）
9	2013	12月20日	¥500,000	ボランティア寄付金	ボランティアSHOP、ボランティア室わかば募金より（ブックオフ買取り他）
10	2014	12月15日	¥500,000	新棟事業募金	ボランティアチャリティーSHOP、ボランティア室わかば募金より
11	2015	9月10日	¥100,000	がん研パワーアップPJ	ボランティア室わかば募金より（ボランティア活動10周年記念）
12	2015	12月9日	¥500,000	ボランティア寄付金	ボランティアチャリティーSHOP
15	2016	12月27日	¥500,000	ボランティア寄付金	ボランティアチャリティーSHOP
総額			¥3,955,200		

⑥募金活動（金額：50,551円）

ボランティアチャリティーSHOP 会場に設置した募金コーナーで募金にご協力いただいた方への御礼として、がん研のロゴマーク入りオリジナルグッズを差し上げての募金活動を実施しました。

SHOP でのお買い上げに加えて、お釣りを募金箱に入れてくださる方、SHOP でのお買い物はしなくても募金だけでもご協力くださった方、おかげさまで沢山の募金が集まりました。本当にありがとうございました。



- 【募金特典】
- 100 円以上の募金 → がん研の外観風景のオリジナルしおり 1 種類
 - 300 円以上の募金 → がん研の外観風景のオリジナルしおり 3 種類
 - 500 円以上の募金 → がん研ロゴマーク入りゴルフマーカー、マグネット

がん研有明病院「ボランティアわかば」募金活動報告

No	年	月日	金額	寄付先	備考
1	2013	12月20日	¥10,695	がん研究医療推進募金	ボランティアチャリティーSHOP募金箱
2	2014	12月15日	¥7,310	がん研究医療推進募金	ボランティアチャリティーSHOP募金箱
3	2015	12月9日	¥65,206	がん研究医療推進募金	ボランティアチャリティーSHOP募金箱
4	2016	12月27日	¥50,551	がん研究医療推進募金	ボランティアチャリティーSHOP募金箱
総額			¥133,762		

⑦寄付金贈呈式

年末 12 月 22 日のクリスマスイベント開催に合わせて、ボランティア室にお越しいただいた病院長の山口先生に、ボランティアわかばのメンバーを代表してボランティアチャリティーSHOP でも大活躍の土屋千恵子さんより、寄付金 50 万円を贈呈しました。日頃のボランティア活動だけでなく、がん研を支えようと、ボランティアチャリティーSHOP の開催や募金活動にまで力を注いでいるメンバーに、後日、理事長からのお礼状も届けられました。ボランティアメンバーはがん研のミッションや活動内容に共感して、惜しみなく時間と労力を提供してくれる強力な支援者です。



7. がん患者さんが歌う春の第九チャリティーコンサート

4月1日に開催された「がん患者さんが歌う春の第九」チャリティーコンサートにボランティアわかばから4人のメンバーが合唱団員として参加いたしました。ソプラノ・アルト・テノール・バスの4パートにわかれておりましたが残念ながら男性ボランティアさんの参加はなく、アルトに今泉尚子さん、吉田 麗さん、ソプラノに林寿恵さん、本田景子さん、そして、ボランティアコーディネーターの柴田も合せると、合計5名が出演いたしました。



普段、病院で行われているボランティアわかばの図書や外来案内、コンサートのサポートやイベントの開催などの活動に加えて、開催10ヶ月前の2016年6月から毎週月曜日に2時間の合唱練習に参加しました。練習場所も病院がある有明からは離れた新大久保や茗荷谷で行われておりましたが、10ヶ月にわたる練習も毎回熱心に参加しました。

合唱の経験がある方も全く初めてという方もいらっしゃる中、がん患者さんやご家族、病院スタッフやボランティアのメンバーと一緒に同じ目標に向かって進んでいくことは、日頃のボランティア活動でもなかなか味わうことのできない経験で、本番当日、ほど良い緊張感の中、今までで最高の演奏を届けようと、同じ思いで舞台に立った合唱団員は、指揮者の山田和樹さんが振る指揮棒によって、まるで魔法をかけられたかのように『歓喜の歌』を気持ちよく歌いあげることができました。

演奏が終わり、客席から湧き起った大きな拍手、応援にかけつけてくれたボランティア仲間の声援、そして合唱団員の笑顔、達成感で満ち溢れ、舞台と客席が一体になったと感じた瞬間でした。

これを機に、がん患者さんやご家族への支援が益々広がりますように、そしてこのコンサートで多くの方の共感を得られたように、ボランティアやチャリティーの輪が広がっていきますようにと、心から願っております。



8. ボランティア活動に寄せられたご意見

日頃のボランティア活動に対して、患者さんやご家族から投書箱へのメッセージやボランティア室宛にお手紙が多数寄せられました。私たちの活動は目に見えるものばかりではなく、ひっそりと陰ながら活動していることも多く、そのさりげない活動が患者さんやご家族の心に届いていると実感できるメッセージが多数寄せられましたので、ご紹介いたします。

- ❖今回で3回目の入院患者の家族です。ボランティアの方々の図書整理やデイルームの快適な時間は、患者や家族の癒しになっています。
- ❖図書コーナー、すごく有難いです。いつも活用させていただき、ありがとうございます。
- ❖いつもボランティアの方にお世話になっています。丁寧に一冊一冊、図書コーナーで本を拭いてくださっている男性ボランティアの方（背の高い、チェックのシャツの方です）、本当にありがとうございます。
- ❖心電図の機器を入れた小さなポシェットを見て、先生からボランティアさんの手作りの品だと教えていただきました。自分も何かしらお役に立てないか…と考えながら、こちらのボランティアの皆さんの働きとその必要性について、医師をしている妹にもぜひ話しをしてみます。
- ❖ボランティアの方が沢山協力してくださって、ボランティアさんが製作されたドレインポシェットに大変お世話になりました。感謝でした。
- ❖久しぶりに来院しましたが、いつもいつも感心していることは、ボランティアさんが受付受信機のホルダーを清潔にきちんときれいに拭いてくれていることです。心を込めてやっているように思いました。様々ながん患者がいるので、病院としては当然のことなのかもしれませんが、他にはこのような病院はないと思います。気分が爽やかになり、感謝しています。本当にありがとうございます。
- ❖数年ぶりに再発したがんで、長期入院を控えておりますが、これを機に自宅にある本をボランティア室にお贈りしたいと思います。患者さんにぜひ読んでいただけたらと思います。日頃、ボランティア室の方々の活動姿を拝見して、頭が下がる思いです。皆さまのご努力に感謝申し上げます。
- ❖いつもボランティア活動、ありがとうございます。私は現地には伺えませんが、お送りする本が少しでもお役に立てばと願っています。
- ❖皆さま方のご尽力で各所に様々な本があることで、待ち時間の気分がまぎれますこと、御礼申し上げます。このような院内の雰囲気、患者を応援してくださっている様子にカづけられています。
- ❖1階のホスピタルストリートでのピアノ演奏を聴かせていただきました。「マイウェイ」「乾杯」にとっても感動いたしました。明日退院、この曲で歌われている気持ちを忘れずに過ごして行きます。今後もどうぞ、宜しく願いいたします。
- ❖大変お世話になりました。5回目の入院を終え、本日退院する患者の家族の者です。先生や看護師の皆さんの支えにより、安心して治療に専念できました。そして、コンサートは患者本人も家族も毎回楽しみにしておりました。演奏ボランティアも、図書のボランティア活動も温かな活動で、心にしみました。特に12月のお箏のコンサートは楽しくて、そして素晴らしい時間でした。

- ❖先日は思いがけず、コンサートに参加でき、出演者さんへの花束プレゼンターまでさせていただきました。入院中の個室での生活の中、とても心なごむひと時でした。写真も送っていただき、とてもいい記念になりました。ありがとうございました。ボランティアの皆さまの今後のご活躍をお祈りいたします。
- ❖入院生活中、美味しい食事をありがとうございました。誕生日を病院で迎えるのは複雑な気持ちでしたが、朝食のトレイにカードを添えて頂き、とても嬉しかったです。お心遣いに心から感謝します。皆様方の益々のご活躍を祈っております。
- ❖12月23日にサンタさんが来てくれて感激でした。ボランティアの方々、ありがとうございました。直筆のメッセージが最高に嬉しかったです。何よりのXmasプレゼントでした。
- ❖いつも凶書の消毒、整理などありがとうございます。それにとっても素敵なサンタさんを連れて来ていただき、感謝♥ひととき、ほっと笑顔になれました！

患者さんからボランティアわかば宛に
いただいたクリスマスカード



- ❖患者さんからのお手紙

～感動のホスピタルコンサート～

いささか旧聞に属しますが、今も忘れられない感動をお伝えし、関係の皆さまに御礼申し上げたく、一文を記しました。

私は1月16日に手術を受け、23日に退院した者です。

退院3日前の1月20日の溝口 肇さんのコンサートを入院の無聊を慰めるべく楽しみにして行きました。

同じフロアの目の前で始まった演奏、ご自作の曲が身体にしみわたるように響いてきました。好きなチェロの、ゆったりとした優しい音でした。目を閉じてその調べに身をゆだねていた時、突然涙が溢れてきました。美しい音楽に触れて胸が熱くなることはよくありますが、涙したのは初めての経験でした。

今思うに、病院の治療は有明病院スタッフの方々にはすべてをお任せして何の心配もなかったのですが、やはり無意識のどこかに病に対する不安が潜んでいたのでしょうか。そしてその不安をチェロの音がそっと包み込んでくれたのでしょうか。そうだったのだと思えます。

月1回のコンサートに出会えたのは幸運でした。そして、心身ともに癒されたのは幸せでした。演奏された溝口さん、シュワルツさん、小比類巻さんと、軽快な司会の山口院長そしてボランティアの皆さまに遅ればせながらの御礼を申し上げます。有難うございました。

ボランティア支援室の職員紹介

ボランティア活動をサポートするボランティア支援室に、今年度も総合職の新入職員が兼務として配属されました。兼務制度は2014年より導入されて今季で3期目となりますが、様々なボランティア活動を実施しているボランティア支援室の業務を新入職員にも経験してもらい、今後の社会人生活でも役立ててもらいたい、という願いも込めて、新入職員研修の一環として兼務制度を受け入れています。

ボランティア支援室は、実務を担当する職員がボランティアコーディネーターの一名体制となっておりましたので、兼務でも職員が配属されることは非常に心強く感じています。また、社会人一年目で本務の業務に加えて、ボランティア支援室の業務も覚えなければならない新入職員にとってはハードな一面もあるかと思いますが、ボランティア活動に携わる時間は、通常業務では経験できないような貴重なものとなっています。活動にお越しくださるボランティアさんの姿勢を間近で拝見し、人生の大先輩であるボランティアさんと活動を通じてふれあうことで、新入職員にとっても学ぶことが多く、がん研の職員として、「患者さんやご家族のために…」という気持ちや「人の役に立つ喜び」を感じ取る良いチャンスとなっています。

【室長】



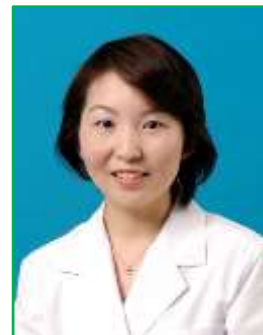
(常務理事/榎山 博)
※2016年5月まで

【室長】



(呼吸器センター長/奥村 栄)
※2016年6月より

【係長】



(ボランティアコーディネーター
/柴田かおり)

【兼務職員】



(総務課/大竹玲奈)
※2015年入職



(給与厚生課/藤村洋平)
※2016年入職



(医事課/芳賀麻維)
※2016年入職



(医事課/和田真緒)
※2016年入職

一年間、ありがとうございました！

